

VBMチューブエクステンジャー

再使用禁止

【禁忌・禁止】
再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

* (形状・構造)

33-45-800-1 VBMチューブチェンジャー オキシチェンジャー 外径11Fr/80cm長

33-46-800-1 VBMチューブチェンジャー オキシチェンジャー 外径14Fr/80cm長

33-47-800-1 VBMチューブチェンジャー オキシチェンジャー 外径19Fr/80cm長



・本品は、患者に挿管した気管内チューブを交換する際にガイドとして用いるチューブガイド（販売名：VBMチューブガイド、製造販売届出番号：13BLX10107000047）とユニバーサルコネクタから構成される。

・チューブガイドは中空構造になっており、気管内チューブ交換時にユニバーサルコネクタとともに用いることで、人工呼吸器、ジェットベンチレータの呼吸回路のコンポーネントに接続して送気することができる（ユニバーサルコネクタは、JIS T7201-2-1に適合する内径15mmのコネクタ又はISO 594に適合する外径6%（Luer）テーパーを持つコネクタに接続可能）。

・チューブガイドの挿入の深さは、サイズにより先端から振られている目盛り（深度マーカ）を参考に決めて決めることができる。

品番	サイズ	長さ	適用気管内チューブサイズ
33-45-800-1	11Fr	80cm	内径4.0mm以上
33-46-800-1	14Fr	80cm	内径5.0mm以上
33-47-800-1	19Fr	80cm	内径7.0mm以上

（原理）

・気管内に挿管されている気管内チューブの内部にチューブガイド（以下ガイド）を挿入した後、ガイド上にチューブを引き抜く。新規の気管内チューブの正しい通過を容易にするため、新規の気管内チューブをガイド上に挿入する。ガイドは、新規のチューブが所定の位置に挿入されたら取り出す。挿入深度の目安として、先端から目盛りがつけられている。

・気管内チューブ交換時にユニバーサルコネクタを用いて患者を酸素化する場合は、ユニバーサルコネクタに人工呼吸器又はジェットベンチレータの呼吸回路を接続し、酸素を投与する。

（原材料）

チューブガイド：ポリエーテルブロックアミド共重合体

（滅菌方法）

エチレンオキシサイドガス滅菌

【使用目的又は効果】

（使用目的）

患者に挿管した気管内チューブを交換する際に用いる。気管内チューブ交換時に患者に酸素を供給する際、コネクタを人工呼吸器等の呼吸回路のコンポーネントに接続して用いる。

本品は気管内チューブの交換手技中に患者に酸素供給ができるよう換気装置に接続可能なコネクタとチューブガイドを組み合わせたものである。

【使用方法等】

** (使用方法)

1. 本品を酸素供給源に接続し、開通性が保たれていることを確認します。
2. 必要に応じてチューブガイドに滅菌済みの水溶性潤滑剤を薄く塗布します。
3. 予め患者を酸素化します。
4. 参照する解剖学的ランドマークを選択して、気管内チューブの挿入深度に留意します。
5. チューブガイドを留置されている気管内チューブを通して、チューブガイドの深度マーカを目安とし、目的の位置まで、チューブガイドを進めます。
6. チューブガイドの位置がずれないように保持して、慎重に気管内チューブを抜管します。解剖学的ランドマークを使ってチューブガイドの位置を確認します。
7. 必要に応じて喉頭鏡を適切な位置に保持した状態で、新しい気管内チューブをチューブガイドにかぶせながら挿入します。チューブガイドの深度マーカと気管内チューブの深度マーカが一致する位置まで、気管内チューブを進めます。
8. 気管内チューブが喉頭入口で動かなくなった場合は、気管内チューブを反時計回りに90°回転させます。
9. チューブガイドと気管内チューブの位置が正しい位置にあるか解剖学的ランドマークとの位置関係を確認します。
10. 気管内チューブを適切な位置で保持しながら、チューブガイドを慎重に抜去します。
11. 気管内チューブを呼吸回路と接続します。気管内チューブが正しい位置にあることを通常の医学的手技によって確認します。

再挿管

手術室又は集中治療室において、容易にチューブを交換するために、抜管後、本品を気管内に挿入したままにできます。意識のある患者でもあまり痛みを感じずに挿入したままにできます。ユニバーサルコネクタから酸素を投与することができます。状況が許すのであれば、直ちに本品を抜去します。

ユニバーサルコネクタを使用して患者を酸素化する場合：

1. ユニバーサルコネクタをチューブガイドに装着します。
2. ユニバーサルコネクタに人工呼吸器又はジェットベンチレータの呼吸回路を接続して酸素を投与します。
3. 気管内チューブの抜管時及び挿管時は、ユニバーサルコネクタを取り外します。

（使用方法に関連する使用上の注意）

- 1) 気管内チューブを抜管及び挿管する際は、ユニバーサルコネクタを必ず外すこと。

【使用上の注意】

（重要な基本的注意）

- 1) 開封後、直ちに使用すること。使用しなかった場合は、再滅菌せずに廃棄すること。
- 2) 本品を経鼻挿管に使用しないこと [経鼻用チューブを抜管時、本品もいっしょに抜ける可能性がある。さらに再挿管時本品が気道内にとどまっていたとしても、動いてしまう恐れがあるため]。
- 3) 気管内チューブを本品にかぶせながら気管に挿入する際には必要に応じて喉頭鏡を使用すること。
- 4) 本品を進める際に過剰な力を加えたり、気管分岐部を越えたり、直接の視覚的確認なしに進めないこと [気管内組織損傷や気管穿孔を引き起こす原因となるため]。
- 5) 本品に潤滑剤を使用する場合は、チューブガイド内腔が詰まったり、膜ができていないことを確認すること [潤滑剤のつけすぎにより、部分的あるいは完全にチューブガイドを閉塞させ換気が阻害される恐れがあるため]。使用に際しては潤滑剤の取扱説明書に従うこと。

- 6) 患者に使用中、チューブガイドをキンクさせないこと [気管壁に刺激・損傷を与えたり、チューブガイドを閉塞させ換気が阻害される恐れがあるため]。
- 7) 本品に呼吸器等を接続する際、ユニバーサルコネクタ先端のルーア部分が閉塞しないよう注意すること [閉塞により換気が阻害される恐れがあるため]。
- 8) 食道挿管であることが確認された場合は、直ちに以下のとおり進めること。
 - (a) 気管内チューブを抜管する。
 - (b) 患者が適切に酸素化されていることを確認する。
 - (c) 喉頭部を吸引する。
 - (d) 気管内チューブ又は他の方法で、適切な気道確保を繰り返し試みる。

【保管方法及び有効期間等】

〈保管方法〉

本品を保管するときは、次の事項に注意すること。

- ・水濡れ、高温多湿及び直射日光を避けて保存すること。
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所を避けて保管すること。
- ・保管時（運搬時も含む）は、過度な振動・衝撃等に注意すること。

〈有効期間〉

- ・本品の包装に記載されている「有効期間」までに使用すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

* (製造販売業者)

smiths medical

スミスメディカル・ジャパン株式会社

<http://smiths-medical.com/jp/>

** (問合せ先)

フリーダイヤル 0120-582-855

〈製造業者〉

VBM メディツインテヒニーク GmbH

VBM Medizintechnik GmbH

〈国名〉

ドイツ